

# 神木山報

shibokusanpon

一隅を照らそう  
10月号

321号  
毎月28日発行

E-mail: info@tougakuin.jp



## 稲荷堂の移設建立が完了

住職 中島 有淳

當山の本堂に向かって左、西側の小高い山中に、かつて小さな稲荷祠がありました。明治に入り神仏分離令により、それ以降はどのような祀られ方であったか記録もありません。手つかずで、次第に朽ち、現在は遺構を残すのみとなっていました。それがこの度、ご縁が重なり、同地に新しく稲荷堂が建立される運びとなり、先日九月二十六日に無事竣工し、遷座の法要を奉修致しました。

この新しく勧請された稲荷堂は、近所にお住まいの鈴木家が、代々ご自宅で家守りされていた稲荷尊を移設したものです。

鈴木家と當山の関係は深く（神木山報二四七号などに詳報）、幕末から明治にかけて寺の護持・発展に大いに貢献されました。ご一族で本店、よろずや、古着屋などを広く商いされ、當山への参拝者が宿泊し、往時の住職とは囲碁を打ちに行き来する間柄だったようです。現在の本堂建立にご尽力されたのも鈴木家で、これらの様子は当時のご当主・鈴木藤助氏の記された「藤助日記」につぶさに記されています。

現在の鈴木和子氏におかれても、六年前、『妙法蓮華経』八巻、『無量義経』、『観普賢経』の「法華三部経」全十巻を自身で写経され、軸装されて當山に奉安されました。このように當山とは幾重にもご縁を重ねてこられたのです。

こうした因縁浅からぬ鈴木家が、当代を以て家屋を畳まれ、引っ越しを決められたことに際し、家守りされていた稲荷尊の管理を委託されたのが、今回のきっかけでした。

八月十六日、遷座予定地にて地鎮式。翌八月十七日、鈴木家に赴き、稲荷尊の発遣作法（魂抜き）。お社は解体されました。同日に當山では、お社の新設工事が始まり、約一ヶ月かかって完成。お堂として改修され、再び勧請（魂入れ）したのです。それまでの「みたま代」とともに「本地釈迦牟尼如来」や併せて當山縁起による「日本武尊」も共に書き入れて奉祀しました。



古来、お寺と神社は同じ境内に共存した永い歴史がありました。今般、新たに鈴木家の稲荷尊が當山にご遷座されたことは、これからの多文化共生の礎となり、ますます日本の文化を再認識することとなるでしょう。

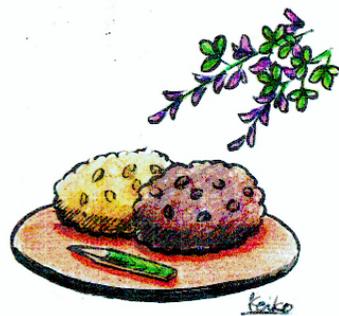
正式名称は『正一位萬福稲荷大明神』。見晴らしの良い高台にお迎えしております。皆様もどうぞお詣り下さい。

（注）『藤助日記』嘉永六年（一八五三）〜明治二十二年（一八八九）  
現在は横浜歴史博物館に収蔵。

## 折りふしのはな

### おはぎ

「暑さ寒さも彼岸まで」と言いますが、本当にお彼岸を境に急に涼しくなりました。お彼岸のお供えの「おはぎ」も春は ぼたもち（ぼたんの花） 秋は おはぎ（萩の花）と 先人の智慧ですね。種類もつぶあんとかこしあんとかいろいろありますが、何がお好きですか？ あずきの花も 甘い香りがするのかしら （遊）



### 月例行事案内

- ◎八 日 午後二時 薬師如来祈禱会 観音経誦
- ◎十二日 午後二時 智泉院法要日（於・日本橋茅場町）
- ◎十八日 午後二時 観音経誦法要（於・神木観音堂）
- ◎二十八日 午後二時 不動明王護摩供修行
- 祝・七五三お詣り（予約受付中）  
\*御札・御守り授与します
- \*毎朝六時より公開で朝のお勤めをしております
- ◎都合のよろしい時にはご一緒どうぞ

までも  
ささい  
たす  
なご  
ご参詣下さい  
(マスクはご着用下さい)

月例「止観(坐禅)会」10月17日(土)  
各10名・申込順・500円 ※①は禅杖あり  
①8:30~9:30 ②10:00~11:00

## あとがき

○上記報告のように「萬福稲荷大明神」を當山高台に新しくお迎えしました。名前のように皆様に沢山の福が授かりますように。○ご遷座法要の様子や、今年是非公開で実施した九月の「ぜんそく平癒祈禱」の映像を、近日中にYouTubeで公開予定。○安倍首相の突然の辞任表明(8/28)から、あれよあれよという間に菅新首相の誕生。コロナ禍や米・中・ロ・南北朝鮮等の「内憂外患」で、誰がなっても、日本の舵とりは大変と危惧します。

○十月初めから、観光客を除く全世界からの入国を再開する予定とか。感染収束の見通しが無いまま手探りの決断です。まだ病院や高齢者のホームに入っている方にも面会がままならない状況。

○朝参りの方に「先日稲刈りを手伝ってき た」と聞き、田んぼ里山の、美しい日本の原風景を思い描きました。

○秋の名月を愛でる楽しみは、大勢でなくても是非したいものです。楽しみを見つけながら、御自愛下さい。

